

鹿児島医セン

鹿児島医療センター(心臓病・脳卒中・がん専門施設)

2022.5 vol.193

令和4年度 院長挨拶



院長 田中 康博

令和4年度の挨拶を申し上げます。

当院は地域に役立ち、頼りにされる病院を目指し、日々努力しております。しかしながら、新型コロナウイルス感染症のために十分なパフォーマンスができない状況もありました。もちろん、鹿児島の住民を守るために、様々な新型コロナ対策にも参加しておりますが、もうそろそろ新型コロナウイルス感染症は収束に向かってもらいたいものです。

令和4年4月より、新しいメンバーを迎え、従来通り、いや少しパワーアップして良い医療を展開して行こうと考えているところです。当院は「がん」「脳卒中」「心臓・大血管」を3本柱として、また横断的な糖尿病、腎、歯科口腔外科眼科などでチームを作り医療を行っています。得意とするところ、そうでないところの多少のばらつきがありますが、方向性は一緒に急性期高度医療を目指しております。

「がん」診療

外科的療法、放射線療法、化学療法、時にゲノム医療なども行っています。今できる最先端の医療を提供しています。消化器系の検査や治療もかなり増加してきました。また、緩和ケアチームも精神科医師を中心に、肉体的、精神的緩和を多方面からサポートを行っております。「納得して検査を受ける」「納得して治療を受ける」ことをモットーに満足できる医療を提供したいと考えています。化学療法の選択が難しい「がん」もありますが、臨床倫理委員会を介して、今可能な最適医療を目指しています。

「脳卒中」診療

脳血管内科、脳外科が一つのチームとなり、カテーテル治療（脳卒中、脳動脈瘤など）件数が増えています。首から上（鎖骨下動脈）の動脈が対象です。低侵襲でより効果が高い治療を提供しています。超急性期治療はもちろん急性期から慢性期まで様々なステージに対応可能です。多職種チームでしっかりとサポートしますので安心して質の高い医療が受けられると思います。

「心臓・大血管」診療

あらゆる循環器疾患に対応可能です。冠動脈疾患（狭心症、心筋梗塞など）や弁膜症へのカテーテル治療や外科手術、不整脈に対するカテーテルアブレーションによる根治術、多くの症例と実績があります。平成29年に始まったTAVI（カテーテルによる弁置換術）も、令和4年3月より指導施設に格上げされ、透析患者さんの大動脈弁狭窄症にも治療可能となりました（九州で3施設、全国で18施設）。またカテーテルによる僧帽弁縫縮術 Mitraclip も始まりました。循環器の最新治療を含め患者さまの治療の選択肢が増えた事は幸いです。

この3本柱に横断的な診療科が参加することで全人的な医療を提供できます。まだまだ、コロナの終息は見えませんが、命にかかわる、待たなしの疾患に対して職員一丸となって対応していく所存です。皆さんへ良い医療を提供し、病気について一緒に考え、納得できる医療を目指します。まだまだ、足りないところもありますが、今年度もよろしく願いいたします。

令和4年4月

僧帽弁閉鎖不全症に対する 僧帽弁クリップ術を初施行

2022年3月18日当院で僧帽弁閉鎖不全症に対する経カテーテル的僧帽弁修復術（MitraClip）を初施行しました。

小倉記念病院から2名の先生を招いて、指導を受けながら、無事手技を終了することができました。

「僧帽弁閉鎖不全症」は僧帽弁という逆流防止の心臓弁の閉鎖が悪くなり、血液が左心室から左心房へと逆流してしまう病気で、効率的な心臓のポンプ機能が妨げられ、心臓の機能が低下したり、循環不全により心不全の状態になってしまいます。

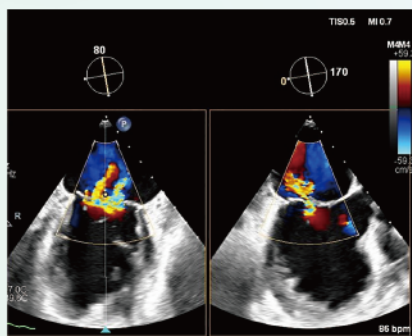
治療としては僧帽弁形成術や人工弁置換術など外科手術が行われておりますが、体力が低下している方・手術による合併症リスクが高い方など、手術が困難な患者さまには薬物での治療法が行われてきました。しかし薬物治療のみでは根本的な治療にはならず、すでにそれ以上内服を追加することが難しい患者さまはそれ以上の治療の手段がありませんでした。

そこで2018年4月から国内で経カテーテル的僧帽弁修復術（マイトラクリップ）という新しい治療法がはじまりました。その特徴は、カテーテルを使用し、開胸することなく、心臓を止めることなく、低侵襲に僧帽弁にクリップをかけることで逆流を制御する方法です。従来の外科手術と比較し、人工心肺を使用しなくて済むことから、身体への負担が少なく、高齢で体力が低下したり、他の疾患を有していたりする手術困難な患者さまが対象となります。

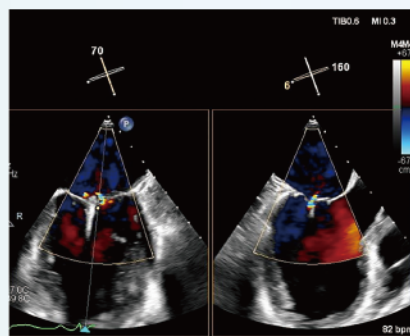
循環器内科医、心臓血管外科医、麻酔科医、心エコー医、臨床工学技士、放射線科技師、生理検査技師、各部門の専門看護師が協力して治療にあたる「ハートチーム」によってその治療適応などを決定し、治療や術後のケアを担当していきます。

今後鹿児島において僧帽弁閉鎖不全症に対する新たな治療法で、心不全でお困りの患者さまのお力になれることを期待しております。

（文責：第二循環器内科医師 園田 幸一郎）



治療前



治療後

新 任 紹 介



血液内科 レジデント
山本 花

4月より血液内科に内科専攻医として勤務させていただくことになりました山本花と申します。血液内科3年目のまだまだ未熟な者で外国出身のこともあり、先生方・スタッフの皆様にはご迷惑をお掛けすることは多いと思いますが、精一杯頑張りますのでどうぞよろしくお願い致します。



糖尿病・内分泌内科 レジデント
當房 卓也

4月より鹿児島大学病院から当院へと赴任になりました當房卓也と申します。糖尿病内分泌内科として勤務し始めてまだ日は浅いですが当院での診療に少しでも貢献できるよう精一杯頑張らせていただきます。当院での勤務は初めてとなりますのでわからないことが多々あり、ご迷惑をおかけすることもあります。患者さまのために精一杯がんばっていきますので何卒よろしくお願い致します。



消化器内科
福森 光

4月より済生会川内病院から当院消化器内科へ赴任となりました、福森光です。鹿児島県・宮崎県の関連病院で研修を積んできました。当院では消化管・胆膵領域の診療・内視鏡治療で患者さまに安心できる医療を提供できればと努力してまいります。当院各診療科、当院スタッフの協力をいただきながら、鹿児島県の医療に貢献することを目標に頑張ってきて参りますので、よろしくお願い致します。



消化器内科 レジデント
宮之前 優香

4月より消化器内科に勤務させていただくこととなりました。前任は鹿児島市立病院で、医療センターは今回が初めての勤務となります。初めての環境で不慣れで未熟な点多々あり、先生方やスタッフの方々に助けていただくことも多いかと思えます。一人ひとりの患者さまに寄り添い、地域の医療に貢献できるよう可能な限り努力していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。



消化器内科 レジデント
梶原 涼

今年度より鹿児島厚生連病院から当院消化器内科に赴任いたしました梶原と申します。

鹿児島医療センターでは初めての勤務となります。まだまだ未熟者で、ご迷惑をおかけすることも多いかと思えますが、先生方、スタッフの方々のご助力をいただきながら研鑽してまいります。よろしくお願い致します。



第一循環器内科
野元 裕太郎

2022年4月より第一循環器内科に赴任いたしました。鹿児島出身で志學館高等学校、熊本大学卒業後、初期臨床研修から鹿児島に戻りました。研修医2年目で第一循環器内科に2か月間お世話になり、それが契機となり循環器内科に入局しました。その後10年経ち戻ってまいりました。大学病院と並んで鹿児島の循環器診療の最先端に行く当院で研鑽を積み少しでも地域の循環器診療に貢献出来るよう微力を尽くします。どうぞよろしくお願い致します。



第一循環器内科
沖野 秀人

4月より鹿屋医療センターから第一循環器内科に赴任しました。鹿児島医療センターでは初めての勤務となりますので、分からないことが多く、ご迷惑をおかけすることもあるかと思えますが、精一杯頑張っていきたいと思えます。何卒よろしくお願い申し上げます。



脳血管内科 レジデント
山下 悠亮

4月から脳血管内科レジデントとして赴任しました山下悠亮と申します。鹿児島大学病院脳神経内科での勤務を挟んで、初期臨床研修医の2年間を過ごした当院に戻ってくることになりました。医師としてのスタートを切らせていただいた環境で、これまでにお世話になった方々のもとで再び働けることが楽しみであるとともに、改めて背筋が伸びるような心地がします。様々な経験を積んで自分自身の成長に繋げることはもとより、微力ながらもお力添えができるように精一杯精進して参ります。何卒よろしくお願い申し上げます。



小児科
精松 貴成

2022年4月より小児科に赴任しました精松貴成(あべまつ たかなり)と申します。前任地は済生会川内病院でした。鹿児島医療センターでの勤務は初めてです。小児科全般の診療を行います。特に小児血液・腫瘍性疾患の診断、治療を積極的に行って参ります。病院と、子どもの健康に少しでも貢献できるように頑張ります。どうぞよろしくお願い致します。



小児科
安留 悠希

4月から小児科に勤務しております。前任地は鹿児島大学病院です。初期臨床研修のときに鹿児島医療センターでお世話になりました。指導医の先生方はもちろん、看護師さん、技師さん、事務の方々、たくさんの方に支えられて大変楽しく充実した研修をすることができました。思い出がたくさんあるその病院に再赴任することができてとても嬉しく思っております。恩返しができるよう精一杯頑張りますのでどうぞよろしくお願いいたします。



放射線科
桑水流 絵梨奈

4月より南風病院から当院放射線科に赴任しました、桑水流絵梨奈と申します。鹿児島医療センターでは初めての勤務となります。現在、3人の子供の子育て中のため、時短勤務をさせていただいております。

鹿児島医療センターでは今まであまり経験したことのない分野の症例も多く、毎日勉強させていただいております。ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、少しでも力になれるように、精一杯頑張りますので、何卒よろしくお願いいたします。



婦人科
神尾 真樹

長崎出身の神尾です。男女共学となる前の青雲中高の出身です。鹿児島は大学からで、一番長く住んでいる土地となりました(鹿児島>福岡>長崎>佐世保(現在の本籍地)>イリノイ)。平成9年に鹿大の産婦人科教室に入局し、昨年50歳となりました。若い頃はいくつかの病院に赴任しましたが、大学院を卒業し2004年に大学に戻ってからはずっと大学勤務でした。大学では、子宮癌のセンチネルリンパ節生検、子宮頸癌の妊孕性温存手術、ロボット手術、HPVなどのテーマで婦人科癌を中心に勉強させていただきました。大学以外の勤務は20年ぶり、初めての部長職となります。慣れないことも多く不安ですが、頑張りますのでよろしくお願い致します。



放射線科
長野 えりな

4月より放射線科として赴任することとなり、かつて研修医として勤めた鹿児島医療センターに戻ってこられたことを大変嬉しく思います。勤めるにあたり、懐かしく感じることもあれば、当時とは違うことも多々あり、新鮮な気持ちも抱きながら過ごす日々です。まだまだ力不足なこともあります。研修時代にたくさんの方々にお世話になった分、今の自分にできることを精一杯やることで少しでも貢献したいと思っておりますので、何卒よろしくお願い致します。



脳神経外科 レジデント
渡邊 章二

4月より脳神経外科で勤務させていただくことになりました、脳神経外科専攻医の渡邊章二です。鹿児島大学出身ですが、前任地は宮崎県都城市の藤元総合病院でした。鹿児島医療センターでは初めての勤務になります。脳・血管内科の先生方をはじめ、他科の先生方、コメディカルスタッフの方々にも助けていただくところが沢山あると思いますが、お役に立てるように精進して参りますので何卒よろしくお願い致します。



放射線科 レジデント
栄鶴 ゆかり

4月より勤務させて頂くことになりました放射線科入局3年目の栄鶴ゆかりと申します。これまで鹿児島大学病院といまきいれ総合病院で勤務し、今回初めて鹿児島医療センターに赴任致しました。多くの症例を経験させて頂き、放射線科医師として成長したいと思っております。ご迷惑をお掛けすることも多いかと思いますが、患者さまのお役に立てよう一生懸命頑張ります。ご指導の程よろしくお願い申し上げます。



麻酔科 レジデント
島内 美奈

4月から鹿児島大学病院から当院麻酔科に赴任しました、島内と申します。鹿児島医療センターでは初めての勤務となります。未熟で至らない点が多く、先生方、スタッフの方々にはご迷惑をおかけすることが多々あるかと思えます。様々な経験を通して成長できていけるよう精一杯頑張りますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



■お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター(心臓病・脳卒中・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

(代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <https://kagomc.hosp.go.jp/>

メディカルサポートセンター

地域連携室専用FAX▶099(223)1177

※休日・時間外は当直者で対応します。

